



認定NPO法人 フードバンク北九州
ライフアゲイン



facebook



X (Twitter)



Instagram

本部事務所

〒805-0019 福岡県北九州市八幡東区中央2丁目14-17

TEL 093-672-5347

受付／月～金 10:00～16:00(祝日はのぞく)

FAX 093-671-2395

E-mail info@fbkitaq.net

ライフアゲイン ホームページ



〒805-0026 福岡県北九州市八幡東区東山2丁目3-5

TEL 093-482-5306

開館日／月～土 10:00～18:00(祝日はのぞく)

FAX 093-482-5319

E-mail info@fbkitaq.net

つきだテラスTOMONY ホームページ



発行日:2025年8月



THANKS REPORT 2024

2024年度 年次報告書



認定NPO法人 フードバンク北九州
ライフアゲイン

ビジョン・ミッション

これまでライフアゲインの目指すべき姿・社会(ビジョン)を「すべてのこどもたちが大切とされる社会」とし、その実現のために私たちが果たすべき使命(ミッション)を「生まれ育った環境のために、満たされた食事ができない、十分な教育を受けられない、寂しい思いをしているこどもたちを北九州からゼロにする」として活動を進めてきました。

2024年度、このビジョン・ミッションの持つ意味と価値を再確認するとともに、社会情勢やニーズなど、幅広い見地から論議を深め、次の10年のライフアゲインの組織と事業を支えるビジョン・ミッションについて話し合いました。

できるだけ多くの方に関わってもらうために正会員、ボランティア、職員に公募という形で委員の呼びかけを行いました。そして、理事、有識者も含むビジョン委員を選出し、10月から毎月1回、計6回のビジョン委員会を開催しました。委員会と並行して研修(こどもの権利条約、北九州市のこどもを取り巻く状況)を行うと同時に、ライフアゲインが関わっている小・中・高校生の声を聴く場を持つなど、多くの方々に関わっていただき新しいビジョン・ミッションが生まれました。これが、今後のライフアゲインの事業を支える理念となります。

新ビジョン

すべてのこどもたちが大切とされ、いつでも一步をふみだせる社会

新ミッション

私たちは、対話を大切にし、
こどもの「生きる力」を支えていくために次のことに取り組みます

「こどもはみんな、みんなのこども」

力を合わせ、こどもをお腹いっぱい、愛情いっぱい支えます

「いつでも、だれでも、なんどでも」

みずからの学ぶ意欲を支え、成長の機会を提供します

「みんなが主役」

違いを大切に、互いに尊重しあえる関係を育み広げます

「食のいのちは人のいのち」

食品ロス削減を通して、未来の豊かな環境づくりに貢献します

「分かち合いと助け合い」

私たちは、助け、助けられる存在であることを基本とし、つながり支え合うコミュニティづくりにむけて行動します

ビジョン委員会でいろいろと話し合いました



ビジョン委員会 委員 (敬称略)

委員長: 木村和利(職員)
副委員長: 八百屋さやか(理事)
委員: 上田浩(理事)、垣迫裕俊(有識者)
川野藍(職員)、都甲達徳(ボランティア)
橋本太(ボランティア)、袋野茉緯未(職員)
事務局: 陶山恵子(事務局長)

いままでのビジョンは残したい。主体とか成長の表現を加えたら...

これまでは食品ロス削減に関することが入っていなかったから、入れたい

こどもにとって守られて安心できるというのが大事! なんにでもチャレンジできる子は安心がある子

対象はこどもだけど、親や周りの大人を含んで考えないとむずかしい

ミッションは食を通してエンパワーされる内容だと思おう

自分の可能性を信じてという言葉があるといい



どんな方法でビジョンを実現するのか、そしてそれはどんな事業で行うのか、一貫性をもって語りたい

世の中の変化に合わせて動けるようになりたい

こどもの権利条約にある自己決定権が実現できるような社会

困難を抱える人たちの声に近い言葉が良い

「ひとりみんなのために、みんなはひとりのために」といった意味合いが入ると良い



理事長あいさつ

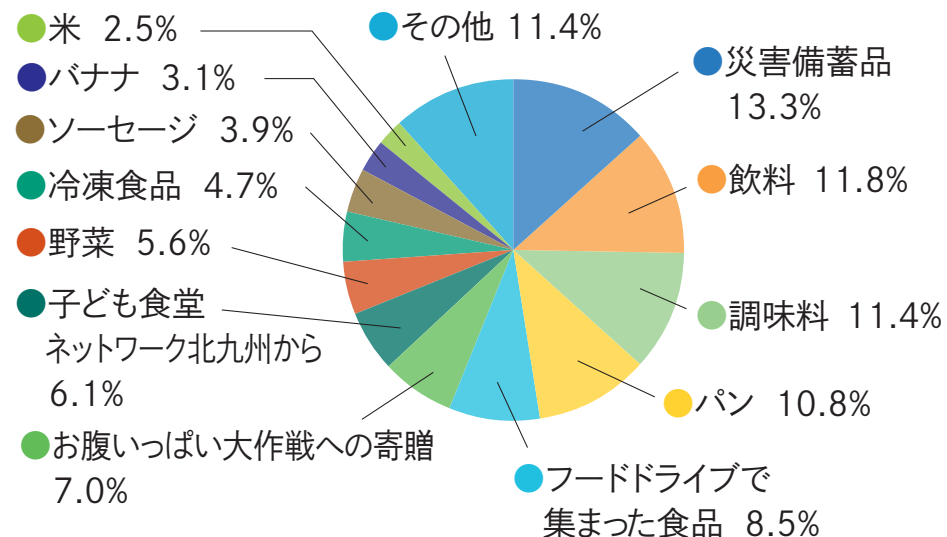
理事長 原田 昌樹

2024年、ライフアゲインは設立10周年を超え、次の10年を見据えた新たなステージに入ったと実感しております。皆さまに支え励まされ、法人の目指すべき姿(ビジョン)を「すべてのこどもたちが大切とされる社会」として、こどもの負の連鎖を断ち切る北九州モデルの構築を目指してきました。昨年度、ビジョン・ミッションの意味合いと価値を再確認するとともに、現在の社会情勢、行っている事業がニーズに対して効果的なものになっているか、広くステークホルダーに共有されているか、社会づくりを推進する力を持っているかなど、次の10年を見据えた新しい「ビジョン・ミッション」を創造いたしました。

そのキーワードは『対話』『連携』『多様性』『コミュニティ』、そして、こどもの権利条約の精神である『こども主体』です。私たちはこれらを、こどもの「生きる力」を支えていく具体的な活動に凝縮し、これからも皆さまと共にこどもたちの未来のために力を尽くしてまいります。どうぞこれからも、私たちの活動に篤いご支援をよろしくお願いいたします。

フードバンク事業

2024年度の食品取扱量は176.9トンで、前年比101%と微増にとどまりました。しかし、2023年度よりスタートした北九州市商工会議所食品部会との連携はさらに前進し、市内の数多くの企業と新たな協力関係を構築することができました。多くの協力企業から、ロス食品だけではなく福祉視点での正規品の食品寄贈が増加したことにより、子どもたちの食生活はとても充実してきました。



「もったいない」を「ありがとう」へ。

2024年度も企業・団体・施設の連携により、大雨や大雪の影響で販売できなくなったお弁当や休校時の給食食材をはじめ、多くの食品・食材の廃棄を防ぎ、必要とされる方々へお届けすることができました。



フードドライブ

フードドライブ実施拠点の延数は123箇所と昨年とほぼ変わりませんでしたが、協力企業や団体が新たに3社増加したことにより、寄贈量は15.1トンと前年比113.5%の伸長となりました。ミクニワールドスタジアムで毎年実施しているフードドライブでは、今回初めてギラヴァンツの選手がブースに登場。多くのサポーターが訪れました。今後もフードドライブが、活動や福祉への関心を高めてもらうきっかけの場となることを期待しています。

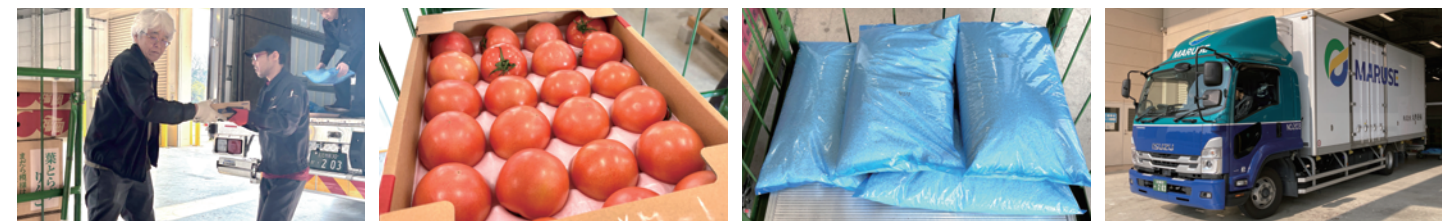


株式会社北九州ブラスト 代表取締役社長 二見 修司

私たちは、支援が必要な家庭があることに気づいていたのですが、何ができるのか、どのように支援すればよいのか分かりませんでした。そんな時に会ったのがフードバンクの取組でした。活動を通して食料を無駄にせず、困っている人たちに届ける仕組みの一員となり、私たちにもできることがあると実感しました。継続して活動が続ける中で、企業の方々にも理解を得られ、協力の輪が広がっていくのを感じました。そして今、1年前に比べて活動の規模が大きくなり、その一員として関わっていることを嬉しく思います。

北九州商工会議所との連携による「フードバンクデー」

2023年度より開始した北九州商工会議所食品部会との連携により、食品企業からロス食品や正規品を月1回定期的に寄贈していただく「フードバンクデー」の取組が開始されました。1月は3社の参加でしたが、2月は6社、3月は7社と回数を重ねるたびに参加企業が増加しています。また、配送面でも運輸部会所属企業から1社の協力がスタートしました。



小林青果株式会社の取組

毎週、正規品の野菜をご寄贈いただいています！

大手スーパーなどに野菜を出荷している小倉北区の仲卸業・小林青果株式会社は、家庭で使い勝手のよいにんじんやキャベツ、じゃがいもなどの野菜と果物を、毎週寄贈いただいています。野菜や果物は、全て店頭に並ぶ物と同じ正規品です。家計をやりくりする際、後回しになってしまいがちな価格の高い野菜や果物のご支援は大変ありがたく、子育て家庭にも大変喜ばれています。



ご家庭からの声

小こは子供が3人居て寄贈していただいている食品で、お腹いっぱい食べられて感謝しています！本当にありがとうございます😊

野菜の値段もあがって一時はなかなか買えなかった。子どもの野菜不足が気になり困っていた時期もありましたが、お陰様で毎日大助かりです。いつも本当にありがとうございます。



フードバンク支援について



小林青果株式会社 専務取締役 末嶋 義則

最近の野菜の相場は、天候にも恵まれだいたい落ち着いてきていますが、お米の高騰が生活にも大きな痛手を与えています。2025年は梅雨明けが異常に早く、暑さが続くため、野菜や果物の相場は今後さらに高騰する恐れがあります。家計をやりくりする際にまず削られるのは食費です。この取組を通し、特に子育て世帯への支援が必要だと感じています。地元企業として、地域のこどもたちの健やかな成長に貢献していきたいです。

北九州フードバンクセンターでの施設・団体向けフードパントリー

2024年度のパートナー団体（食品を提供している施設・団体）は137団体となりました。子ども食堂等の開催日に合わせ提供を行っているほか、不定期でフードパントリー（食品配布会）も開催しています。3月には北九州フードバンクセンターで初のフードパントリーを実施。42団体が参加しました。十分な広さがあり、食品の受け渡しスペースまで車で乗り入れることが可能なため、これまで以上に受け渡しがスムーズになり、参加したパートナー団体も喜ばれていました。この施設を無償貸与し、共同運用してくださっているGZキャピタル株式会社に改めてお礼を申し上げたいと思います。



ファミリーサポート事業

北九州市7区に置かれた「いのちをつなぐネットワーク」や子ども家庭相談コーナーなどと連携して、要支援者への食品配布を継続して行いました。物価高騰によりくらはますます厳しさを増しており、継続食料支援世帯数はピーク時で約170世帯にのぼりました。LINE公式アカウントの登録者数は2023年度に比べ約1,100世帯増加し、約3,400世帯となりました。

物価高騰の影響もあり、毎月の食料支援世帯は約150～170世帯と増加傾向。相談件数は約250件にものぼりました。相談内容も深刻なケースが多く、行政や民間の相談窓口、パートナー団体との連携をとることで、食料支援だけでなく必要なサポートにつなぐことができました。

子育て世帯食料支援総数	1,772世帯
宅食・緊急食料支援数	2,987世帯
食品受取施設数	137施設
LINE 登録者数(期末数)	3,415世帯

ライフアゲインのつながり支援



深刻化する相談内容に対応できるよう体制を強化しました。相談事業では、つながり支援チーム内に食品お渡しボランティアを新設。傾聴と守秘義務についての研修会を終えたボランティアスタッフが6名誕生しました。また、子育て支援に関わるスタッフへの内部研修実施、外部研修への参加を積極的に促しました。食料支援を入り口として要支援者・相談者と信頼関係を結び、包括的支援につなぐという考え方のもとに、これまで蓄積した経験や行政や専門組織とのネットワークを活かし、相談への対応を充実させてきました。



広がり続けた共感

元西日本新聞記者 山本 敦文

「『すべての子どもたちが大切』とされる社会を目指す」。八幡東区の商店街にあるライフアゲインの事務所入り口には、こんな「宣言」が掲げられています。食品ロス削減や食料支援はもちろん大事。だが、ゴールはそこではない。すべての子どもたちを大切にするために私たち大人がつながる社会を築くことが、ライフアゲインの目標なのでしょう。

3月に北九州市を離れるまでの2年間、記者としてライフアゲインの活動を追いました。「お腹いっぱい大作戦」、IT関連企業が倉庫を提供したフードバンクセンターの開設、北九州商工会議所の食品企業が新鮮な野菜などを提供する月1回のフードバンクデー…。活動への共感の広がりと、そのスピードには目を見張るものがありました。

国内には400ほどの社会保障制度や相談窓口があるとされていますが、ほとんどは支援を必要とする人が自ら役所などを訪れて手続きをしなければならない「申請主義」です。言わば、待ちの姿勢。ですが、本当に追い込まれた人は煩雑な書類を準備できなかったり、制度や窓口を知らなかったりして支援が十分に届いていない現状があります。声が上がるのを待つのではなく、孤立する家庭や子どもに食を通じてアウトリーチし、企業や行政も巻き込んで社会全体で支える。ライフアゲインの10年は、福祉のあり方を根本から問う社会運動なのだと思います。

ホームスタート・ライフアゲイン

乳幼児がいる家庭を訪問し、保護者と一緒に家事や育児を行う家庭訪問型子育て支援事業「ホームスタート」。2024年度は新しく4名のホームビジターが誕生し、計11名のホームビジターが活動しました。そして、新規利用家庭は15世帯となりました。また、ホームビジターのフォローアップ研修を6回実施しました。そのひとつ「赤ちゃんを災害から守る」には、乳児育児中の利用者にも参加いただき、災害への備えや災害時の対応などについて学びました。



子育てひろばもぐもぐ&ホームスタート利用者

子育てひろばもぐもぐ

2024年5月にスタートした子育てひろばもぐもぐは利用家庭96世帯、222名(こども120名)の参加がありました。子育てサポーターは延100人の活動となっています。0歳～2歳までの親子の利用が多く、保護者の方がゆっくり昼食をとることもできます。ホームスタート利用終了後のホームビジターとの触れ合いの場所ともなっており、訪問終了した親子が成長した姿をみせてくれるなど、利用者やホームビジターにとってもかけがえのない居場所になっています。



柴田 沙織

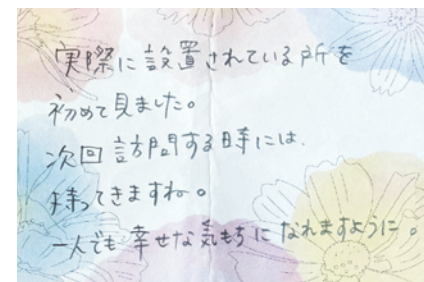
もぐもぐ広場に行けば、日々の睡眠不足で疲れていても私の代わりに息子を可愛がってくれる方々がいて、同じように頑張っているママたちと共感しあい、情報共有ができ、何度も救われてきました。

ホームスタートでは信頼できるビジターさんのおかげで、家事をしったり話を聞いていただいたり、心と体を休めることができました。両方利用させていただくことで、息子を穏やかに見守ることができ、感謝しております。

実家が遠く、ワンオペ時間が長いなど、密室育児の中で孤独を感じながらも、小さな命を守っているママにとって、自分をいたわる時間や安心できる居場所は必要不可欠だと思います。温かな支援が当たり前の世の中になっていったらうれしいです。本当にありがとうございます。

おもいやりぽけっとBOXプロジェクト

2022年からスタートした生理用品無償設置プロジェクトも2年目となり、5ヶ所で継続実施することができています。また、2022年11月～2025年3月までを集計したところ、利用された生理用品の枚数は4,049枚、寄付は1,234枚でした。利用された枚数の約30%にあたる枚数の寄付をいただいております。このプロジェクトの目的である「助けてほしいという人と誰かの役に立ちたいという人の思いをつなげる」という願いに沿った取組になりつつあります。



想いをつなぐランドセルプロジェクト

経済的な理由でランドセルを準備することがむずかしい家庭へ、使わなくなったランドセルを募り無償で提供する取組です。2025年1月には試験的に譲渡会を実施し、23人のこどもたちにランドセルを渡すことができました。これまでイオン九州より計53個のランドセルを寄贈いただいているほか、取組を知った個人の方から思い出のつまったランドセルの寄贈も増えています。



寄贈してくれた中学生

お腹いっぱい大作戦

5年目の取組となった「お腹いっぱい大作戦2024」。北九州市との連携によって就学援助受給世帯と児童扶養手当受給世帯にチラシを配布し、LINE公式アカウントの登録を呼びかけました。そのLINE登録者に希望を募り、応援食品の希望者に抽選で、給食のない夏休みと冬休みにそれぞれ1300世帯へ食品を箱詰めしてお届けしました。

食品寄贈企業は延べ55社、参加したボランティアは延べ約135名に

ライフアゲインの連携企業へ「ほしいものリスト」を送付し、食品の寄付を募り、多くの企業に協力をいただきました。社内でフードドライブを実施して食品を集めてくださる会社、毎年予算化して食品を購入してくださる会社、取引先にも声掛けをして支援を広げて下さる会社など、感謝でいっぱいです。そして、クリスマス前にはクラウドファンディングを実施しました。クラウドファンディングでは、228人より3,226,680円の寄付をいただき、食品購入などに使わせていただきました。多くの皆さまに支えられ、この事業を実施することができました。

「ひとりじゃないよ」たくさんの人の想いが詰まった応援食品BOX

食品箱詰め作業には企業・大学・団体より多くのボランティア参加がありました。「箱を開けたときに子どもたちが喜んでくれるように」と、参加者は食品を箱に詰める「作業」としてだけでなく、届けた先にいる子どもたちを想いながらひとつひとつに愛情を込めて「ギフト」にしてくださっていることが伝わってきました。



クリスマスは特別な一日。子どもたちに忘れられない思い出を作ってもらおうと、初の試みとして2つの「体験」をプレゼントしました。応援食品として、クリスマスに家族で作る「手作りケーキキット」をお届けしました。オープンが無くて簡単に楽しく作れるレシピも同封しました。



継続食料支援世帯の子どもたちを対象に「自分で選べるお菓子のプレゼント」を実施。自分で選ぶ経験が、楽しい思い出となってくれたらという願いを込めました。

子どもたちに絵本や児童書をプレゼント

「子どもたちに愛された記憶を残す」を合言葉に活動する認定NPO法人チャリティーサンタとの連携で実現した取組です。2024年度は、就学援助受給世帯でLINE公式アカウントの新規登録者659世帯と「冬休みお腹いっぱい大作戦」の食品が抽選で外れ、本を希望された206世帯に合計2,071冊の本を届けることができました。こどもの人数、年代に合わせて本を選び、丁寧に封筒に入れ、発送作業を行ったボランティアは、喜びこどもたちの笑顔を思い浮かべながら、とても楽しそうでした。

本ありがとうございました。
自分の本になったので
とてもうれしいです。
大事に読みます。
おとうも、とてもよろこんで
いました。



こどもたちのお腹と心をいっぱい！たくさんの企業様よりご寄贈いただきました！



ご家庭からの声

子供と一緒にダンボールを開けました。開けた隙間から笑顔の雪だるまが見え、子供と目を合わせ、思わずニコッと笑顔になりました。クリスマスケーキを作るセットが入っており、嬉しかったです。ケーキをどうしようかと考えていたのもあり助かりました。お米やシーチキン、普段は買わないようなお肉などが入っていたのも嬉しかったです。子供たちと一緒にクリスマスをお祝いしたいと思います。

冬の寒さの高峰や物価高で、節約も必要で日々です。やさしいクリスマスプレゼントが届いたようで、子供もとても喜んでました！ケーキ作りのセットやクリスマスデコレーションの材料が沢山で、子供にも喜ばれ、思いもよらずに助かりました！本当にありがとうございます！！

クリスマスの食品、ありがとうございます。この物価高の中の食品のプレゼントは、何よりとても助かります。レシピ等も入っていたのでとても良いと思います。娘にクリスマスのおいしいごはんやケーキを作ってあげたいと思います。素敵な活動をしてもらい、ありがとうございます！！

応援食品、ありがとうございます。物価高のため、お菓子やジュースなどの嗜好品を買う余裕がありません。今回の応援食品の中には、ポテトチップスやジュースが入っていて、久しぶりに食べることができました。本当に感謝しています。

冬休みは昼食がいろいろと、食費がかかります。今はお米も高値が続いていて困っています。そんな時にフードバンクが届いてとても助かりました。今回はクリスマスケーキのキットもあったので、子供と一緒に作るのが楽しみです。みなさんの優しさに感謝しています。ありがとうございます。

この時期に届けていただき、クリスマスプレゼントのようで嬉しかったです。息子と一緒にワクワクしながら開けました。作れるレシピとクリスマスケーキを作るセット、ジュースにお米、お菓子等たくさん入っていてびっくり。息子が喜んでいました。一緒にクリスマスケーキを作って楽しもうと思います。忙しい日々ですが、頑張ろうと思える送り物。ありがとうございます。



新日本熱学株式会社 代表取締役 室田 智

2024年夏、「おなかいっぱい大作戦」への初参加をきっかけに、私たちはフードバンク北九州ライフアゲイン様の活動に継続して参加させていただいています。活動を通じて、多くのご家庭が食の支援を必要としている現実に触れ、「私たちにも何かできることがあるのでは」という想いが自然と芽生えました。食品の箱詰めボランティアには毎回多くの社員が自主的に参加しており、最近ではその輪が家族や子どもたちにも広がり、親子で参加する姿も見られるようになってきました。「困っている方々の力になりたい」という一人ひとりの純粋な想いが、行動となって地域の大きな力へとつながっていることを実感しています。

また、他企業の皆さまや地域ボランティアの方々との交流も、私たちにとって学びと喜びに満ちた、かけがえのない時間となっています。今後も「食」を通じた支え合いの輪がさらに広がるよう、私たちも歩みを止めず、できることから取り組みを続けてまいります。

地域子ども支援事業

子ども食堂では「こどもまんなかのまちづくり」モデル構築、学習支援では「居場所としての自習室」の市内展開を考え、地域の絆をつなぐ拠点としての役割を意識して取り組みました。子ども食堂では中学生ボランティア、学習支援では高校生ボランティアを募り、こどもの主体性を大切にしたい取組を進めました。

尾倉っ子ホーム

尾倉市民センターで毎月第2・4水曜日の17時から開催している子ども食堂。今年度は22回開催しました。4月当初は50名程であった参加者が、年度末には70名程に増え、延べ数ではこども679名、ボランティアを含めた大人 592名、計1,271名が参加しました。コロナ禍で中止していた子ども調理を再開し、2〜3名の母親クラブの方が調理指導にあたり、毎回3〜4名のこどもたちが調理を通して生活スキルを学びました。



ちゅうおうまち食楽福亭

八幡中央区商店街ふれあい広場にて、毎月第1土曜日午前10時から開催しています(屋外での開催のため、気温の低い1〜3月は休止)。こども参加人数は平均60名を超え、延べ数でこども580名、ボランティアを含めた大人883名、計1,463名が参加しました。

10月には八幡大谷まちづくり協議会主催の「地域交流型フードサポート/みんなでおすそわけ in 中央町」(食品配布をきっかけにさまざまな相談窓口につなげ、孤独・孤立予防を目的とした事業)との初コラボも実現し、500名以上の地域住民の参加がありました。子ども食堂をまちづくりの拠点と捉えて活動を展開し約3年が経過しましたが、その構想が少しずつ形になっていると感じています。



みんな食堂TOMONY

つきだテラスTOMONYでは、多世代のコミュニティづくりを目的とし、こどもたちだけでなく地域住民すべてを対象とした「みんな食堂TOMONY」を開催しています。毎月第1日曜日、第3土曜日の月2回の開催です。2024年度は、年間20回開催。参加者数は739名となりました。

毎回定員を超える参加者で、高齢者から小学生、未就学児親子まで、幅広い多世代の方々の参加となっています。高齢の方々からは、みんなで集える貴重な場として大変喜ばれており、また「いろいろな世代の人と触れ合える素晴らしい場」と、近隣の小学校の校長先生からも声をいただいています。



無料学習塾「ステップアップ塾ライフアゲイン」

毎週土曜日の夕方に、中央町事務所の3階で無料学習塾を開催しています。15名の小中学生が、ほぼマンツーマンで講師についてもらいそれぞれのペースで学習に取り組んでいます。講師は高校生を中心としたボランティアです。毎回、担当したこどもたちのようすや学習内容を共有し、次週に繋げています。東京にあるステップアップ塾(NPO法人維新隊ユネスコクラブ)と連携して、ライフアゲインはステップアップ塾北九州支部として進めています。調理ボランティアの協力もあり、学習した後は、児童生徒やボランティア講師と一緒に食事をする事ができています。



無料自習室「STUDYCAMP」&つきだテラスTOMONY 無料自習室

月曜日から金曜日の夕方、中央町事務所3階とつきだテラスTOMONYを自習室として解放し、見守りのボランティアが運営を支えています。「つきだテラスはとても静かで安心して勉強に集中できるから嬉しい」などの声が寄せられています。ライフアゲイン公式LINEアカウント登録者へのアンケートから、このような無料自習室のニーズがあることを把握することができました。今後、市民センターや高校と協力し市内全域へ無料自習室を広げていく方針です。



君はかけがえのない宝物展2024

インターンの大学生が「もっとライフアゲインを知ってもらいたい」と、アイデアを出しあって作品展の開催を提案してくれました。「君はかけがえのない宝物」という言葉をライフアゲインのホームページから見つけ、こどもたちは唯一無二の大切な宝物だということをテーマに掲げました。今もその思いをつないで宝物展を企画しています。こどもたちの自己肯定感を育み、「こどもたちは地域のかかけがえのない宝物」「地域で子育て」という思いを広げ続けていくために、今年度で4年目の開催となりました。

作品に込めた思いなどを書いたメッセージも添えて、4ヶ所で行ったリレー展示には、たくさんの方々が足を止めて見て下さいました。毎年の展示を待ってくださる方も増えています。

2024年
10月2日～23日

九州労働金庫
北九州西支店



2024年
11月1日～26日

北九州モノレール
香春口三萩野駅



こどもたちはモノレールに一駅乗って自分たちの作品を見に行きました。ちょこっと遠足♪

夢つむぎ子ども支援センターステップ 松尾 奈々

自分の作品が展示され、たくさんの人にみもらえる機会がなかなかない子どもたちにとっていい経験になりました。最初は絵を描くこと、それがたくさんの人に見られることにためらいを感じている子もいましたが、実際に展示されているのを見て嬉しそうにしていたので、私たち職員もとても嬉しかったです。宝物展を通じてひとりひとりの自信にもつながり、いろいろなことに挑戦する意欲も出てくることを期待しています。よい機会をいただきありがとうございました。

作品を見たこどもの感想

わたしはカラフルでみんなの個性があっていいと思いました。自由があっていいと思いました。

作品を見た方の感想

すべてのこどもたちが大切とされる社会の実現に向けたライフアゲインの働きに感銘を受けました。こどもたちの夢に感動しました。「お札の顔になりたい」「海中モノレールに乗りたい」「お城に住みたい」など斬新なアイデアにも出会うことができました。今後もライフアゲインの働きを応援していきたいと思いました。

2024年
12月1日～16日

到津の森公園



2025年
1月4日～30日

北九州市立
八幡図書館



つきだテラスTOMONY

<https://www.tsukida-terrace.com>



つきだテラスTOMONYは地域の拠点としての存在感が高まっています。2022年11月に開館しましたが、「地域とともに、みんなとともに」という願い通りに地域に愛され、立ち寄っていただける施設となりました。町内会回覧板にはつきだテラスニュース、館前の掲示板にはイベント情報の掲示など、地域の情報の集まる所、発信する所となっています。

1階は食品保管庫となっています。毎週届けられる新鮮な野菜や果物、雑貨など、つきだテラスで食品を受け取られる継続支援世帯に喜ばれています。新たに、食品などを選べる棚や冷凍・冷蔵庫を設置して被支援者の気持ちに沿って工夫をした受け渡しの場となっています。スタッフとお母さんが話している側ではこども



たちが絵本を読んだりおもちゃで遊んだり、なごやかな風景が広がっています。支援を必要とされる方々の拠り所として、このような施設を北九州市各区に開設したいと思っています。

2階はキッズスペースのあるホール、フリースペースとしての和室、調理室などがあります。月2回の「みんな食堂TOMONY」の場です。ホールは他団体にも貸出をおこなっています。夕方からは自習室として中高生が勉強のために利用しています。また、外部団体と連携して、毎月、健康相談会、法律相談会なども開催しています。



市民センターとの連携

近くの祝町市民センターとの連携も強まりました。イベントの情報提供や自習室の連携、駐車場の協力などで協働して地域の取組を盛り立てています。地域のお祭りへの出店協力、つきだテラス「みんな食堂」と祝町市民センター「ふれあい昼食会」の共通スタンプカードを作成し、地域住民の利用を促進しています。

小学校・高等学校との連携

ビジョン・ミッションの作成プロセスとして近隣の祝町小学校6年生の授業に参加し、こどもたちの思いや気になることなど話し合う場を持ちました。この授業を行った後には、放課後つきだテラスに立ち寄るこどもたちが目に見えて増えてきました。

また、近隣の八幡高校では、ライフアゲインの学習塾、自習室で活動するボランティアを養成する仕組みが自主活動として創られました。先輩から後輩へとボランティアの意義やライフアゲインとの連携について引き継がれています。



つきだテラスTOMONY 施設長 木村 和利

毎日のように、放課後に小学生が遊びにくるようになりました。「テラスいこ！」とこどもたちが話しているのを聞いて、「テラスってなに？」と心配になった親御さんから連絡をいただいたことがありました。趣旨をお話すると「安心して遊ばせる場所ができてうれしい。ありがとう」と言われました。この3年間でこの場所は地域の方々に受け入れていただき、目的としている地域づくりへの貢献に向けて大きく前進できたと感じています。今後も、ライフアゲインが大切にする「つなぐ・つながる」の視点から、地域の方々がいつでも気軽に立ち寄れて、にぎやかで楽しい声が絶えない、開かれた施設づくりを目指していきます。

普及啓発事業

県知事賞受賞

「令和6年度 福岡県食品ロス削減優良取組知事表彰」を受賞しました。ライフアゲインは自ら食品ロス削減を行うだけでなく、県内のフードバンク設立支援や、企業が社内で行うフードドライブ活動への協力、新たなフードドライブ拠点の設立サポートも行っています。このような地域一帯で食品ロス削減を推進してきた取組を評価していただきました。



コンサート&講演

『このまちのすべてのこどもの未来を守る』と題して音楽とのコラボ企画に原田理事長が招かれました。理事長の講演を受け、音楽デュオ「リヒト」の歌とピアノでこどもの未来をテーマにした演奏をするという新しい形の公演会でした。来場者の中にはフードバンクの活動を初めて知ったという方々も多く、大変有意義な会となりました。



こどもの権利条約研修

11月に河嶋静代さん（NPO法人チャイルドライン北九州理事長・NPO法人福岡県子どもアドボカシーセンター理事長）を講師にお迎えし、ライフアゲインの役職員とボランティア、ビジョン委員会委員も参加して「こどもの権利条約」について学ぶ場を持ちました。日々こどものための活動を行っているライフアゲインとしてもっとも重要なベースとなる認識をみんなで共有しました。



リビング北九州「夏休み自由研究フェス」

8月、地域の情報誌「リビング北九州」が小学生向けに企画したイベントに協力しました。八幡中央区商店街事務局と八幡高校の生徒と一緒に「『フードドライブ』を体験して学ぼう～フードバンクでお手伝い!』という企画に協力させていただき、8名の小学生を迎えました。「食品ロスってどうして生まれるの?」「アイスクリームには賞味期限がないんだって!」など、フードバンクや食品ロスについてのクイズや、フードドライブで集まった食品を賞味期限ごとに仕分ける作業などを体験してもらいました。「1日にお茶碗一杯分の食品ロスをしているから、協力して減らせたらいいいと思います」「食べ物を無駄にしないためには、フードバンクに送ったりするとよいとわかりました」などの感想があり、いろいろ学んでもらえたようで楽しい夏休みの一日となりました。



街頭募金活動&エコライフステージ

前年度に引き続き、10月是小倉駅、11月是小倉井筒屋前にて街頭募金活動を行いました。11月は前日より北九州市役所周辺で開催されていたエコライフステージにもブース出展し、広報と募金を呼びかけました。横断幕やバナースタンドを立てて前年より格段とパワーアップした活動で、街ゆく人々にアピールしました。「フードバンクはまだ知られていないなあ」という感想と同時に、「世の中には助け合いの心を持った優しい人がたくさんおられるな」という実感を深めることができました。

街頭募金には、ボランティアやスタッフの家族も参加してたくさんの笑顔があふれていました。

また、この時期は「冬休みお腹いっぱい大作戦」に向けてクラウドファンディングがスタートした時期でしたが、お母さんに連れられていた小学3年生の女の子が自分のお小遣いでクラウドファンディングに参加してくれました。この日、初めてフードバンクの活動について知り、関心を寄せてくれたのです。「私が寄付したお金は少ないですが、皆さんいっぱい食べてほしいと思います」と、女の子からの応援メッセージがクラウドファンディングのサイトに届きました。

皆さまからお預かりした温かさ、優しさを、力強く感じた街頭募金活動でした。



フードバンク活動の社会的インパクト評価

北九州市立大学松本亨教授を中心に、フードバンクが果たしている社会的役割を定量化し、フードバンク活動の価値を総合的に評価しようとする調査研究がおこなわれました。ライフアゲインからは取扱食品の量や種類に関する情報提供、子育て世帯へのアンケート調査協力をおこないました。

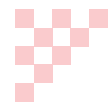
研究の着目点は、ライフアゲインの取組によって、こどもの成長する過程での経済的制約を補い、さらに将来的な貧困の連鎖を断ち切る可能性があり、地域内総生産の増加や社会保障費の削減といった社会的なインパクト創出、ひいては行政コストの削減につながっているのではないかとこの点です。

ライフアゲインだけでなく、他のフードバンクの後押しともなるという思いでこの調査に協力し、結果の説明を受けました。フードバンク活動の関係者（ステークホルダー）を被支援者だけでなく、企業、行政、社会などに分け、多面的に検証されています。結果は社会的価値総額1億3千万円を超えるという驚くべきものでした。フードバンク活動が食料支援だけでなく、健康維持、医療費の削減、行政負担の軽減、そして、もちろん食品ロス削減による廃棄コストの削減、CO²削減によるコストの低減など、さまざまな価値を生み出しているという結果を再確認することができました。

報告書掲載ページ

<https://www.kitakyu-u.ac.jp/uploads/2ad6e85ee31c4dca359dc6fab646bf44.pdf>



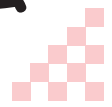


ライフアゲインに参加するために

あなたの参加が子どもたちの笑顔♥未来につながります。参加することは

だれもができる3つの方法

ライフアゲインの仲間になること。あたたかい仲間の輪が広がっています。



1

食品の寄贈で参加



株式会社新星社 代表取締役社長 鳥羽 裕一郎

私は、「自分に関わる人たちを一人でも多く幸せにする」という考えを基に会社を経営しております。自分だけが得をするのではなく、縁あってお会いした方々からたくさんの「ありがとう」を頂くことを自らの生きがいとしています。そんな中、私の妻がライフアゲインのボランティアに参加させていただくことになりました。妻を通じてライフアゲインの活動や目的を聞き、深く共感させられ、私にも出来ることはないかと、食品の寄付をさせていただくようになりました。今後もライフアゲインを通じ、子どもたちの笑顔のために寄付を続けてまいります。



サポーター 松下 純恵・千佳子

私たち姉妹が食品の寄贈を始めたきっかけは、生活困窮世帯の現状を特集した放送を視たことでした。十分な食事を摂ることが出来ずにお腹を空かせている子どもたちがいるという現実、やるせない気持ちになりました。協力できる方法を探していた時に、ライフアゲインの活動を知り、参加することにしました。初めて食品の寄贈に伺った際、スタッフの方が泣いて喜んで下さいました。その姿は人を想う優しさに溢れていて、心が震えました。この優しい想いのつながりが日本中に広がっていくことを切に願います。

2

ボランティアで参加



ライフアゲインボランティア 竹村 英樹

私は、フードバンクのボランティア活動をさせてもらっている竹村英樹です。理事長の原田さんや竹村豊さんの人間性に惹かれて、ボランティア活動に参加するようになり、他の皆さんの励ましを受けて調子よく頑張っています。皆さん、小さなことを褒めていただけてやる気になります。あまり褒めてもらう経験はなかったので、とても嬉しく思い、フードバンクはとても良い所だと思っています。これからも自分の出来る限りはこの活動を続けていこうと思っています。がんばりますので、よろしく願いいたします。まわりの皆さんにはとても感謝しています。お互いに夏バテしないように、体調に留意して張りましょう。



ライフアゲインボランティア 松永 喜代香

私がホームスタートを知ったのは、みんな食堂のボランティアをして一年ぐらい経った頃です。「家庭訪問型の子育て支援…それってなに？」興味津々で養成講座に参加しました。80歳前の私に務まるかな、このかたくなな頭がついていけるかなとの不安もありましたが、オーガナイザーや仲間と助け合いながら無事に終了できました。幼く、かわいい赤ちゃんに癒され、こちらも笑いが自然と出てきます。お母さんとの話も楽しく、とにかくお話を聞く、たまには自分の失敗談も話します。この一刻がお母さんの活力に続くことを信じて、日々お母さんの笑顔が増えるように努力していきます。

3

寄付で参加



マンスリーサポーター 土井 直也

職場で地域共創業務に携わり、社として中央町子ども食堂「たらふく亭」に参加した際、スタッフの方々の思いやりや優しさに感銘を受け、個人として応援したいと思ったことが、マンスリーサポーターへ登録したきっかけです。フードバンクを持続可能な活動とするためには、食品寄付(モノ)はもちろんのこと、それを必要とする人々へお届けするスタッフ(ヒト)も同時に重要で、その運営費を支えるのがサポーターです。縁の下での力持ちであるスタッフを微力ながら応援することが、子どもたちの明るい未来に繋がると信じています!いつもありがとうございます!



はまたに 喫茶フルフル オーナー 濱谷 友一

募金箱は、置くだけで家庭環境がさまざまな子どもたちや困っている方の支援につながります。財布の小銭を全部入れてくれる常連さん、お釣りの小銭を入れてくれたり、お札を入れてくれるお客様もいます。募金するようすは周りのお客様も見ているし感じています。立て続けに募金が続くこともあり、思いやりの気持ち・行動は連鎖するのだと思います。募金した人の気持ちも満たされるようです。説明をしなくても「子ども食堂」と書かれていれば目的はわかります。子どもにはお腹いっぱい食べてほしい。愛情が不足していても、子どもにはせめてお腹だけでも満たしてあげたいです。



特別法人会員

2023年度より特別法人会員の取組を始めました。特別法人会員とは、ライフアゲインの活動趣旨に賛同し、年間10万円以上の支援をしてくださる企業や団体のことです。

登録企業(2025年7月31日現在・順不同・敬称略)

- 株式会社もち吉
- 三栄工業株式会社
- 大英産業株式会社
- 九州機電株式会社
- 新日本熱学株式会社
- 松下ビルケア株式会社
- 辰巳開発株式会社
- 九州電力株式会社北九州支店
- 有限会社ひまわり
- 株式会社ビー・エス・エス
- リフォーム北九株式会社
- 北九州高速鉄道株式会社
- トータルテック株式会社
- コゲツ産業株式会社
- 株式会社北九州ブラスト
- 税理士法人TAパートナーズ
- コスモ海洋株式会社
- 第一交通産業株式会社
- 株式会社CGSホールディングス
- 株式会社ゼンリン
- 株式会社西日本シティ銀行北九州総本部
- 株式会社石川興産

ライフアゲインの経営について

2024年度は、経常収益(収入)51,922,562円(前年比2.8%増)に対し経常費用(支出)56,760,473円(前年比4.2%増)となり、-4,837,911円と昨年度に続き2年連続の赤字決算となりました。赤字は前年度繰越金で吸収し次期繰越金は15,099,145円(資産を含む)となりました。これは、事業がどんどん拡大し費用が大きくなるスピードに資金調達のスピードが追いついていないということと捉えています。この赤字構造をこのまま放置することはできない状況にあります。

昨年度に比べると、受取寄付金は21.6%増、助成金は9.1%増となっており、資金調達活動も力を入れてきました。また、寄付金・助成金が伸びているということは、ライフアゲインの活動が社会的に高く評価され、支援につながっているということと理解しています。しかしながら、現在の私たちの事業はどれも収益を生む事業ではなく、事業収入は前年の約1/4しかなく収益全体の3%に留まっています。収益の96%が寄付金、助成金など外部資金に依存していることを表しています。NPO法人としては、寄付金・助成金・事業収入を3本柱としてバランスの良い収益構造を作り上げることが喫緊の課題と考えています。

新規事業を2026年4月スタート

ここ数年、収益事業の必要性について理事会でも論議してきましたが、2年連続の大きな赤字を出してしまった事態を踏まえ、いよいよ2025年度は、収益事業の準備に取り掛かり、放課後等デイサービス事業の2026年4月開始をめざします。この放課後等デイサービス事業では、中高生を対象に、高校卒業後の自立、就労の準備をプログラムに取り入れていきます。こどもたちの成長に合わせてさまざまな支援活動を行っているライフアゲインにとって重要な内容となります。

2024年度に受けた助成金

独立行政法人福祉医療機構 (WAM)	令和5年度補正予算助成事業	7,000,000円
独立行政法人福祉医療機構 (WAM)	子どもの未来応援基金	3,000,000円
一般財団法人日本民間公益活動連携機構	組織基盤強化事業	4,811,000円
一般財団法人日本民間公益活動連携機構	新型コロナ及び物価高騰対策事業	4,271,858円
農林水産省	食品ロス削減総合支援事業	2,124,142円
こども家庭庁	ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業	2,694,000円
全国フードバンク推進協議会	こども応援全国プロジェクト	169,000円
福岡県フードバンク協議会	子ども支援活動事業、物流支援	2,600,000円
九州労働金庫	NPO助成金	300,000円
エフコープ生活協同組合	ふくし助成金	523,000円
エフコープ生活協同組合	環境助成金	300,000円
北九州市	NPO公益活動支援事業	500,000円
北九州市	ふるさと納税を活用した協働のまちづくり推進事業	498,400円
北九州市	子どもの居場所作り応援基金	300,000円

令和6年度 活動計算書

単位:円	
経常収益	【収入の部】
	受取会費 491,000
	受取寄付金 20,711,038
	受取助成金 29,091,400
	事業収益 1,626,426
	他経常収益 2,698
経常収益計 51,922,562	
経常費用	【支出の部】
	<事業費>
	人件費 18,821,288
	業務委託費 2,438,810
	諸謝金 2,329,789
	印刷製本費 855,850
	交際費 33,000
	旅費交通費 1,119,968
	車両費 749,009
	通信運搬費 4,361,834
	消耗品費 3,405,914
	食材費 3,331,401
	修繕費 564,360
	水道光熱費 998,938
	地代家賃 3,284,400
	賃借料 354,200
	減価償却費 2,252,086
	保険料 493,398
	諸会費 65,000
	研修費 24,100
	支払手数料 270,983
	リース料 1,250,198
	事業費計 47,004,526
	<管理費>
	役員報酬 840,000
	人件費計 5,965,406
	業務委託費 77,120
	諸謝金 6,137
	印刷製本費 93,868
	交際費 10,000
	旅費交通費 41,324
	通信運搬費 298,312
	消耗品費 204,699
	修繕費 10,000
	水道光熱費 329,243
	地代家賃 461,100
	減価償却費 147,481
	諸会費 72,175
	リース料 112,512
	租税公課 241,595
	支払手数料 814,544
	新聞図書費 25,431
	支払寄付金 5,000
	管理費計 9,755,947
経常費用計 56,760,473	
経常外費用	固定資産除却損 55,000
	経常外費用計 55,000
	当期経常増減額 (4,892,911)
	当期正味財産増減額 (4,892,911)
	前期繰越正味財産額 19,991,956
次期繰越正味財産額 15,099,045	

受取寄付金が、はじめて2,000万円を超えました。個人、法人によるライフアゲインの活動への支持・参加がこの数字に表れています。

受取助成金も、これまでで最も高額となりました。ライフアゲインへの社会的信頼と取り組んでいる事業への評価と受け止めています。

人件費は、ライフアゲインの活動を支え、維持しているスタッフの賃金、通勤手当など諸手当、法定福利費などです。2024年度は、フルタイムスタッフ5名、パートタイムスタッフ9名で運営しました。

通信運搬費は、「お腹いっぱい大作戦」などの宅送料や絵本の送料、LINEアカウント使用料などが含まれています。

食材費は、子ども食堂3ヶ所の食材費、「お腹いっぱい大作戦」で送った食品の購入費を含んでいます。お米の寄贈が減り、購入費が膨らみました。

2024年度は、約500万円の赤字となりました。ライフアゲインの事業は大きくなった半面、それを十分に支える収入が追いつきませんでした。赤字は繰越金で吸収しました。経常収益のうち、事業収入が少なく、不安定な構造となっています。

